

動物の診察室から

○ 81 ○

今年12歳になる日本犬の「不二子ちゃん」は、肝臓の機能が悪くなつたため、10日に1回病院へ皮下補液に通つています。

喉に何か詰まつたような咳をするようになり、病気が進行すると肺水腫を起こして死んでしまいます。

聴診すると左の胸で特徴的な逆流性雜音が聞こえ、レントゲン、超音波検査で病状の進行具

わんちゃんは高齢になると、心臓の左の弁膜(僧

天国から仲間が見守る



治療を続ける不二子ちゃん。いつもルパン君と一緒に

後には亡くなつてしまつたのです。

銅い主のおねえさんたちは、ルパン君を火葬し、少しだけ遺骨をペンダントに入れ

て、仲良しだった不二子ち

ゃんの首にかけてあげました。天国へ行つてしまつたルパン

君ですが、これでいつも不二子ちゃんと一緒で

不二子ちゃんの病気は重症です。でも、散歩にも行き食欲もあります。おねえさんたちの愛情もまた、この犬の命を救つてきました。これまでにも多くの犬の命を救つてきました。これが今まで、不二子ちゃんの血液をすぐに輸んで、不二子ちゃんの命を支えているのでしょ

銀のペンダント

帽弁が厚く萎縮してしまい、弁がピタッとしま

らなくなる、僧帽弁閉鎖不全症(MR)になつてしまつ子が多くいます。

MRになると、左心室か

ら左心房へ血液が逆流し

て、左心房が大きくなり

ます。症状はゲホッゲホッ

合を知ることができま

す。首には銀のペンダント

不二子ちゃんも、今

年の4月にMRがわか

りました。診察したときに

は重度の貧血を起こして

いました。これまでにも

多くの犬の命を救つてき

たウルフハウンドの小梅

ちゃんの血液をすぐに輸

血したのですが、2時間

後には亡くなつてしまつたのです。

不二子ちゃんは、4年

前までオスのわんちゃん

と仲良く暮らしていました。その子は「ルパン君」。

しかし、4年前のある日、急に具合が悪くなり

ご夫婦にかわいがられていました。

ルパン君は不二子ちゃん

より少し若く、特に病気

をすることもなく、若い

ご夫婦にかわいがられて

いました。

不二子ちゃんの病気は

重篤です。でも、散歩に

も行き食欲もあります。

おねえさんたちの愛情

もまた、この犬の命を救つてきました。これが今まで、不二子ちゃんの命を支えているのでしょ

う。

わんちゃんは高齢になると、心臓の左の弁膜(僧

帽弁が厚く萎縮してしま

い、弁がピタッとしま

らなくなる、僧帽弁閉鎖不全症(MR)になつてしまつ子が多くいます。

MRになると、左心室か

ら左心房へ血液が逆流し

て、左心房が大きくなり

ます。症状はゲホッゲホッ